

言語聴覚障害学フィールド・スタディ

[実習] 第1・2学年 通年 選択 2単位

《担当者名》 中川賀嗣 poverame@hoku-iryu-u.ac.jp 田村至 飯田貴俊 才川悦子 黒崎芳子 柳田早織

【概要】

臨床技能向上のための実習である。臨床担当教員の指導の下に、北海道医療大学病院・外部関連病院における症例見学を行い、観察記録・評価・訓練を通しての課題分析、担当症例の評価とリハビリテーションを行うことにより言語聴覚障害（摂食嚥下障害を含む）領域の基本的知識・技能とともに臨床コミュニケーション（文書あるいは口頭）を身につける。担当症例については症例検討会（カンファレンス）での報告、症例報告を行う。

【学修目標】

一般目標

症例を担当することにより評価・リハビリテーションを行い、言語聴覚障害領域の基本的知識・技能・臨床コミュニケーションを身につける。

行動目標

1. 適切な用語を用いて臨床観察を行うことができる。
2. 代表的な評価方法を適切に実施し、結果の解釈をすることができる。
3. 訓練目標に適った課題の設定と実施ができる。
4. 担当症例の報告・記録ができ、他職種との連絡・連携ができる。
5. 症例報告を書くことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	実習の概要、スケジュールについて説明する。	中川賀嗣 田村至 飯田貴俊 才川悦子 黒崎芳子 柳田早織
2 ） 14	フィールドスタディ（臨床実習）	臨床見学で担当症例での評価、分析、リハビリテーション（訓練）、報告と記録、発表を行う。	中川賀嗣 田村至 飯田貴俊 才川悦子 黒崎芳子 柳田早織
15	まとめ	症例報告書を作成、発表、提出する。	中川賀嗣 田村至 飯田貴俊 才川悦子 黒崎芳子 柳田早織

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

症例報告6編（認知言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害、高次脳機能障害、失語症領域） 100%

【教科書】

使用しない。

【学修の準備】

担当症例に関して事前に情報を収集し、原因疾患とその治療法などについて知識を得ておくこと（80分）。

評価や治療を行う場合には、検査法・治療手技に関して習熟しておくこと（80分）。

担当症例に関して症例報告を書き、その症例の理解を深めること（80分）。

【実務経験】

中川賀嗣（医師）

田村 至（言語聴覚士）
飯田貴俊（歯科医師）
才川悦子（医師）
黒崎芳子（言語聴覚士）
柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

専門分野に関する学術的、臨床的経験を活かした議論・討論等を行う。